サッシ付きパネルを開発

2月にも上棟見学会を予定

兼希工業

兼希工業（群馬県伊勢崎市、細渕敦社長）は、自社で開発したサッシ付きパネル「NEO SMART PANEL構法」の普及に取り組んでいる。来月にも東京都下で上棟見学会の開催を計画している。

このパネルは、最大幅1820㍉の柱間に収まるサイズで、4㌧車に鋼製ラックを使い平積みできるように開発された。

工場でサッシを取り付けして、建築現場での省施工とともに、断熱性能を高めたいニーズにも対応しやすいことから、サッシ付きパネルの需要が高まっている。

2階建て、35坪くらいの木造住宅の場合、壁パネルで4㌧車1・5台分。トラックの車幅に収まるサイズのパネルにして、トラックの積載効率を高める。

上棟から雨仕舞までの時間を従来の14日程度から3日間に短縮できる。

住宅会社からの引き合いは多く、2021年11月末で納入済み35棟、受注8棟が入っている。



サッシ付きパネルの「NEO SMART PANEL構法」の施工現場

導入会社のなかには同社のパネルと合わせてサイディングプレカットの採用を検討しているところもあり、躯体精度を高めることで次の施工合理化にもつなげようという動きもある。

細渕社長は「パネル化はもともと、工期短縮や現場品質の安定、さらに付加価値化を進めることが目的。雨仕舞が早く終わるよう期待されているように感じる」と言う。

同社は全国5工場でNEO SMART PANEL構法の供給体制を整備しており、全国対応の住宅メーカーやFCなどへ対応できるように進めている。

同社は年間2000棟規模で在来工法向けのパネル製作と羽柄材プレカットを行っている。

様々な住宅会社の要望に応じたパネル製作を手掛けてきたなかで大工不足への対応や、工期短縮、高断熱化など品質向上に向けてパネルメーカーの立場でNEOスマートパネル構法の開発を行った。

今後、普及に向けて見学会などを開いていく予定だ。

創業5年目の吹付けウレタン断熱材メーカー

今期3,000棟目指す

ジャパン断熱

現場吹き付け系ウレタン断熱材の販売・施工を手掛けるジャパン断熱（名古屋市、中村嘉孝社長）の2021年12月期の戸建て施工棟数は、計画していた2000棟を大きく上回る2500棟規模（前年比4割増）となるなど、事業は好調だ。創業5年目になる今年は3000棟の販売を目指している。



泡発泡で隙間なく吹き付けるウレタン断熱材

断熱施工と同時に高い気密性を実現する現場吹き付け系ウレタン断熱材は確実に設計どおりの省エネ性能を実現できる断熱材として人気が高く、年々シェアを拡大している。そうしたなかで同社は、丁寧な工事を心掛けることで着実に事業を伸ばしている。

全現場で施工前の打ち合わせを実施し、施工現場はすべて写真に残す。断熱材原料はすべて国産メーカーから調達。施工班は熟練工の職長で構成し、施工品質の徹底に力を注いでいる。

昨年9月には本社を移転し、事務所と原材料倉庫、社員寮を1カ所に集約することで販売、施工、管理までを一貫責任で行う体制をさらに強化した。

断熱性能の強化は光熱費削減につながるため快適さと投資の回収がしやすいという二重のメリットがある。

工務店にとっても、ジャパン断熱が提案するHEAT20仕様などの高付加価値製品をそのまま販売することで差別化できる。

商品はノンフロンの「ハイブリッドフォーム」と、フェノールフォームと同等の高い断熱性能を持ちながらオゾン破壊係数ゼロの「ハイブリッドフォームHFO」の2種がある。屋根はハイブリッドフォーム、壁は、断熱性能のより高いハイブリッドHFOを使い分けることで、コストと性能の両面のバランスの取れた省エネ住宅の提案が可能だ。

吉野石膏の「タイガーEXボード」を耐力面材に用いた仕様で防火構造認定を取得。昨今の合板不足も手伝って販売が好調に推移している。

オプションで行っているIBECの気密測定のサービスも好評だ。全館空調や遮熱資材、セントラル型浄水器など、快適な住環境を実現するための各種資材も販売している。

需要拡大に対応するため、今期は東京西部や関西エリアなどへの新規出店も計画している。